

開業30年間の赤字は300億〜600億円

並行在来線開業準備協議会が市民説明会開催

並行在来線開業準備協議会主催の説明会が7月23日、文化会館で行われました。

テーマは北陸新幹線開業後にJRからの経営分離が予定されている並行在来線等の経営、利用促進をどうするかです。新潟県交通政策局の杉野副局長などが、同協議会がまとめたばかりの経営計画案、利用促進計画案を説明しましたが、市民からは「県内区間だけの単独経営でいいのか」「県は国やJRとの支援協定書なりを作ってから三セク会社を立ち上げるべきではなかったか」などの批判が相次ぎました。

単独経営、上下一体方式を基本にした経営計画案

北陸新幹線開業後にJRからの経営分離が予定されている並行在来線は、北陸本線の直江津



富山県境、信越本線の直江津〜長野県境の約100キロメートル。県交通政策局の松澤並行在来線企画室長が並行在来線経営計画案を中心に説明しました。それによ

ると、「基本的な経営スタイル」については、「県内の並行在来線区間を単独経営する方向で」「経営会社が鉄道施設を保有する『上下一体方式』で」当面の検討を進めるとしていきます。そして、今後、経営計画の基本的の方針に沿って、「運行」、「車両」、「施設」、「要員」など6つの事業分野について、経営会社が具体的に事業計画を策定し方向性を定めていくとの説明でした。

注目されたことのひとつは経営会社の損益試算です。松澤室長は、国の公的支援支援がどうなるか、運行車両を電車とするかディーゼル車とするかなどによって、開業30年間の公共負担（赤字）は約300億円から約600億円まで、様々なケースが見込まれるとのべました。

もつと他県との連携重視を

質疑応答では、「経営計画案全文読んだが、並行在来線のJRからの経営切り離しをしないでほしいということにはまったく触れられていない。これを国にいうべきだがなぜいわないのか」「JRが鉄道運輸機構に支払う新幹線貸付料には並行在来線区間の経営分離によるJRの赤字解消分も含まれているというが、赤字解消分などを地方に返還せよという働きかけは先行している三セクでもやっているのか。関係する北陸の他県などでもこうした主張をしているのか。他県とも連携しているのか」など経営問題で要となることについての質問が相次ぎました。これに対して杉野副局長は「国の方針は分離が前提となっている。これまでの約束もある。難しい」「先行しているところでは、赤字解消分に特化せずにもつと広い支援制度を構築



【チョウトンボ】吉川区小苗代の池で25日撮影。湖面では赤とんぼとこのチョウトンボが飛び交っていました。前羽の先は透明、後ろ羽が大きく見えます。この池はオニバスでも有名です。

してほしいと要請している。他県も同様だ」と答えていました。他県との連携に関しての答弁では、副局長の声が弱弱しく感じられました。県民のなかには、「新潟県だけが浮いているのでは」という声もありますので、他県との連携はもつと重視してほしいものだと思います。この他、「上下一体方式は先走りし過ぎてい

シリーズ 上越市内の橋

第46回 西堀橋

「西堀橋」と書いて「にしほりばし」と読みます。高田公園の外堀にかかった朱色の橋。通称は「蓮見橋」、7月から8月にかけては東洋一と言われるハスを見る人たちにぎわいます。橋のたもとには



「高田の四季」の石碑があります。右側の像は新潟県出身の著名な彫刻家、千野茂の「フォーム」という名の作品です。「腰かけた女性が、足先に手を伸ばす」姿勢はハスのつぼみのよう。橋長は約85メートル。竣工は1989年（平成元年）です。